



平成 21 年 7 月 30 日

各 位

会社名 富士通コンポーネント株式会社
 代表者名 代表取締役社長 松村 信威
 (コード番号 6719 東証第 2 部)
 問合せ先 常務取締役 望月 晴夫
 (TEL 03-5449-7000)

当社の親会社 富士通株式会社
 代表者名 代表取締役社長 野副 州旦
 (コード番号 6702 東証、大証、名証、各市場 1 部)

平成 22 年 3 月期 特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成 22 年 3 月期第 1 四半期において減損処理による有価証券評価損を計上する必要が生じました。また、最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 4 月 30 日に公表しました平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の内容

平成 22 年 3 月期第 1 四半期末の有価証券評価損の総額 36 百万円

2. 連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間の業績予想の修正（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期 純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	18,100	△1,600	△1,740	△1,770	△25,655.15
今回修正予想 (B)	15,500	△2,100	△2,300	△2,300	△33,337.20
増減額 (B - A)	△2,600	△500	△560	△530	—
増減率	△14.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	24,837	△94	△245	△266	△3,850.82

(2) 通期の業績予想の修正（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	37,900	△1,150	△1,400	△1,500	△21,741.65
今回修正予想 (B)	34,900	△2,100	△2,400	△2,400	△34,786.64
増減額 (B - A)	△3,000	△950	△1,000	△900	—
増減率	△7.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	42,526	△2,291	△2,697	△4,782	△69,207.75

3. 個別業績予想の修正

(1) 第2四半期累計期間の業績予想の修正（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	14,800	△1,480	△1,500	△1,570	△22,756.26
今回修正予想 (B)	13,600	△1,200	△1,200	△1,300	△18,842.76
増減額 (B - A)	△1,200	280	300	270	—
増減率	△8.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	21,542	△324	△240	△299	△4,332.62

(2) 通期の業績予想の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	31,600	△1,580	△1,600	△1,500	△21,741.65
今回修正予想 (B)	30,500	△1,200	△1,200	△2,100	△30,438.31
増減額 (B - A)	△1,100	300	400	△600	—
増減率	△3.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	36,511	△1,423	△1,341	△8,881	△128,540.83

4. 修正の理由

(1) 連結業績

当第1四半期連結累計期間は、前年度第3四半期からの世界的な金融危機の影響により引き続き厳しい状況が続きました。今年度に入り、景気悪化に一部下げ止まりの兆しがあるものの、依然として本格的な回復への道筋が見えない厳しい状態が続いております。当社グループが属する電子部品業界におきましても、お客様における在庫調整が進んだのに加え、いわゆる「エコカー減税」や「エコポイント」等の景気対策により自動車や産業機器で一部下げ止まりが見られるものの、本格的な回復には至りませんでした。

当社グループはこのような厳しい経営環境のもと、平成21年3月27日に公表しました事業再生計画をもとに、リレー事業体制の再編、人員のスリム化及び徹底的なコスト削減を進めておりますが、需要低迷の影響により売上高が大幅に減少し、上記のとおり前回発表の業績予想値を修正致します。

(2) 個別業績

連結業績同様、需要低迷の影響により売上高が大幅に減少し、営業利益、経常利益及び当期純利益とも大幅悪化となる見込みであり、上記のとおり前回発表の業績予想値を修正致します。

以 上